

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局  
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地  
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人  
コンビニの会

定価/150円  
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第158号



バイタミんカラーのひまわり畑

## 花だより 「ひまわり」

自然写真家 河嶋 秀直

ひまわりは、黄色い大輪の花を咲かせるイメージが強いが、品種としては60種ほどあり、花の大小や赤や白などの色も様々で「ゴッホのひまわり」と画家の名を冠したものである。

原産は北アメリカ、古くインカ帝国では太陽の象徴として大切にされ、学名や英名なども太陽をイメージして付けられている。

ひまわりの花は外側の1枚1枚が「舌状花」内側の1つ1つが「筒状花」という花で、それらが集まって一つの花になっている。

ひまわりは、観賞用としての他に食用としても多く生産されていて、種はそのまま食用とされる他に、生産量の50%は圧搾してひまわり油が作られている。

ひまわり油は、マッサージやスキンケアオイルなどにも使われている。

世界の中で、ひまわりの生産量が多い国はどこか知っていますか？ (次ページへ)

第一位が「ウクライナ」そして第二位が「ロシア」なのです。

ソフィア・ローレンで有名な映画「ひまわり」の舞台もウクライナで、スクリーンの中には見渡す限りのひまわり畑が映っているが、今の戦時下でどうなっているんだろう。

今は、ウクライナ侵攻もそうだが、コロナも先が見えず、皆が不安を抱えている。

そんな気持ちを、バイタミンカラーであるひまわりの黄色が癒してくれる。

ひまわりの黄色は、イギリスでは「身を守る色」「魔よけの色」とされ、アメリカでは「愛する人の無事を願う色」としてイエローボンが広く知れ渡っている。

黄色いひまわりの花言葉の一つに「未来をみつめて」がある。

これから少しでも明るい未来を見つめていけるように頑張りたいと思う。



大輪のひまわり

### 雑記 ごまめの歯ざしり

夏、ひとり

木曾では夏の初めにヒグラシが鳴く。ことしは梅雨が短く、いきなり夏になってしまった。夫は六月の下旬から二か月間仕事の関係で家を空けることになり、私はヒグラシの声と共にひとり暮らしを始めた。

ひとり暮らしは自分のペースで過ごすことができ、困ることが一つある。買い物などの外出である。ペーパードライバーなので、徒歩が公共交通機関を使わなければならない。そこで、月に一度隣町の比較的大きなスーパーマーケットに行くのに地域のコミュニティバスを利用している。町内なら二百円。町外なら四百円。木曾郡内なら結構便利に使える。

町外のいつものお店に出かけた時のこと。買い物を終えて帰りのバス停に向かった。行きのバスで一緒だった若い男性（二十歳前後）も待っていた。そういえばこの前も一緒だった。学生さんなのかなと思ってはみるものの、スマホをずっと見ているので話しかけたりはしない。ちよつと距離感がある。バスに乗り込んでしばらくすると、道端で手を振っている年配の女性がいる。運転手さんはバスを止めてその女性を乗せ「間に合わなかったんだね」と声をかけた。女性は息を切らしながら「乗せてもらえて本当にうれしいよ」と座席に座り、笑顔でばんばんに膨れた買い物袋を膝の上にのせた。

隣町では雨が降っていたが、バスを降りる頃には雨が止んでいた。最寄りの停留所に着き運転手さんに回数券を渡すと、「気を付けてね」。私も「ありがとう、じゃあ」と、近所同士のような挨拶をした。自宅までちよつと歩かなければならないが、気分は晴れ晴れ。赤とんぼがいっぱい飛んでいた。



「願い」に寄り添えているだろうかと考えさせられた。もしかしたら、何一つ「願い」を受け入れることができていないかもしれない。自分の中の課題に気づくことができた。

具体的にその課題を達成するために重要なことは利用者に真摯に向き合うことだ。利用者をよく知ることが近道になるのではないだろうか。自分が何をしなければならぬか改めて考えるきっかけとなった。

◆ 生活支援部 北島 ゆり香 ◆

中村さんの「困っていることを支援に繋げること」を福祉施設の枠をとびこえて地域にも目を向ける」という視野の広さに感銘を受けました。地域との繋がりは大事だと思っていますが、関心が薄れていました。

地域での困りごとを通して自分たちの存

在アピールにもなるし、反対に自分たちが困っていることがあれば地域に助けを求めやすくなるので互いにいいことだと感じました。

また、「歴史を学びなおし、そのまなざしが歴史を作り出すことを信じて」という言葉が印象に残りました。現代にとってもあてはまるワードです。日本を含め世界では戦争や暗殺など様々な出来事が毎日のように起こっています。過去にやってきたことを繰り返しているように見えます。これらの出来事は歴史を学ぶ機会になります。大川理事長は「教養ある職員になってほしい」とよく言っています。色々なことを学び、関心をもち視野を広めたいと思います。それが利用者の選択肢を増やすことになります。

◆ 生活支援部 小林 優菜 ◆

今回の研修でたくさんの方の驚きと感銘を受けました。まず「障害者、高齢者、子どもは社会的に暴力の対象となりがちだが、その当事者こそ虐待や戦争をなくす」という言葉から麦の芽福祉会がウクライナの平和運動にも積極的に参加されていることで地域に結びついていのだとわかりました。

今の福祉制度が障害のある方々に受容されず、使いにくいものであることが悲しい現実としてあります。それでもその制度をこえてチャレンジすることで障がいのある人も高齢者も健常者も生きやすい世の中になるのであればチャレンジした結果多少の失敗があっても許されると思います。安定性は確かに大切なので開拓していくには様々なジレンマと課題があると考えさせられました。

## ◆ 通所部 W I L L 佐藤 幸治 ◆

「働きたい」「地域の一員として認められたい」という利用者さんの願いを活動という形に具体化したことや利用者さんが困っていること(社会的悩み)を活動に置き換えて解決した結果が多種多様な事業になったことを中村さんからお聞きしました。枠組みにとらわれず自由に発想して考えることを学びました。

事業や職員集団の作り方についてのお話から、職員が好きなことや興味のあることでコミュニケーションをとり、共同する集団作りをしていくことが大切なことだと思いました。利用者だけでなく、法人に関わっている人達(職員、親、ヘルパー、パート)が「楽しくやりがいを感じられることをしたい」「この法人に関わって豊かな人生ができる」

という気持ちになれる法人(施設)にしていきたいと改めて決意しました。

W I L L の理念は「共に生き、共に学び、共に育みあえる場にする」です。今回の研修でこのことが自分にとっても大切なことだと思いました。

## ◆ 通所部 V O L O 戸谷 夏未 ◆

中村さんが講演の中で話していた内容で「困り事は不安要素ではない」「願いから新たな取組みが生まれる」の2つの言葉が印象に残っています。

日々の支援や業務を行う中で悩みや不安が出てくると私はどうしてもなぜこのようになってしまったのか、どうすれば解決できるのだろうかと気持ちが落ち込んでマイナスな面から物事を捉えてしまいがちです。これ

から仲間から困りごとや悩みを相談された時はその中に隠された本音や希望をくみ取ろうと思います。あわてて解決しようとせず日々の支援に活かしていくことが日常生活や日中活動の充実や新しい事業の展開に結び付いていくと前向きに捉えていきたいです。そうすれば仲間の新たな「願いを生む」ことにも繋がっていくのだと思います。

## ◆ 利用者家族 中谷 和代 ◆

麦の芽福祉会のネットワークの多さ、地域とのつながりに圧倒されました。障害者にとって何が幸せか、何が一番大切か・・・「楽しい、嬉しい、面白い」のスローガンのもとに個々が生きがいをもち働ける場所の開拓やそれに伴う地域との仕事のつながり、あまりの幅の広さにびっくりしました。

特に生協さんと協力し合いながら、お互いにとってなくてはならない関係は素晴らし  
 だと思います。「本当にこんなことが出来  
 るんだ！」そればかりか障害者の親や障害者  
 自身と一緒に暮らせるなんてまるで夢の様  
 でした。どこまででも相手の気持ちに寄り添  
 い前進していく姿はとても心強く感じまし  
 た。これからは、麦の芽福祉会さんを参考に  
 みんなと協力しながら良い方向に進んでい  
 けるように頑張りたいと思います。



講師 麦の芽福祉会 中村隆司氏  
 (Zoom で開催)



午前の部 麦の芽福祉会の事業形態と暮らしの支援に学ぶ



午後の部 ワークショップ「こんな暮らしがしたい！私の未来」

## コロナ禍にて

コンビ二ハウス指定相談支援事業所

相談支援専門員 寺澤 慶英

コロナウイルスという感染症が世界中を席巻し2年以上がたちました。今も多くの方が影響を受け苦しんでいます。毎日身近にせまっている実感がありません。毎日身近にいます。相談支援専門員として事業所との調整も担っているのです、毎日電話が鳴るたびにドキッとします。「発熱して検査していません。」「濃厚接触になってしまった。」「陽性者がでて…」という話、「まさか…」、「どうしよう…」。「またか…」等心の中ではいろんな思いが巡ってしまいます。普段かかってこないところからの急な電話だとコロナと思い込んでしまい、よかった違う話だったとホッと

することもしばしば。私は相談員という立場上いろんな方のお話を聞く機会があります。利用者の思い、ご家族や周囲の方の思い、事業者や支援者の思い。今回はコロナ禍にあつて、聞いたこと、見たこと、感じたことなどを少し綴ってみました。

相談支援の業務として今は電話や郵送な

ような方法をつかってすすめています。どうしてもやはり直接会う機会は多く、携帯用の消毒液等の感染対策グッズをもって訪問しています。もし私自身がウイルスをもっていたら迷惑をかけてしまうのではという不安もあります。逆に中には訪問した際にあとから「周りで陽性者がでている。」とか「ちよつと熱っぽい。」と言われ表情は変えないようにしています。が心の中で「えっ……」となるときもあります。

こと施設に関しても、訪問者や関係者に対

してもコロナを非常に厳しく考えて対処しているところもあれば、大丈夫かなと心配してしまつたような状況のところもあります。しかしそれぞれの利用者の特性などもありまして、そもそもマスクや感染対策をきちんと行うこと自体が困難な障がいの方もいますので難しいところです。

コロナであつてもなるべくいつものリズムを崩したくない、感染症の怖さがあつてもリズムを崩してしまうことの方が不安になる方も多いでしょうし、イレギュラーな変更があると不調に直結する方も多いです。

障がいをもつ方々は様々な福祉サービスを利用していますが、サービスを利用するということは関わる支援者がいます。Aさんは単身で長い時間ヘルパーを利用して生活していますが、この2年は必要最小限以外の外出を控えてきており、ずっと我慢してきて、

いつになったら自由に行きたいところに行けるのかとストレスがたまっています。Bさんは家事援助や掃除など短時間ヘルパーを利用してはいますが、わりと自由奔放にでかけており、コロナ禍でも遠方へ旅行に行ってきた、友人と飲みに行ってきたなど聞くことがあります。コロナは怖いけど、家に一人であることが不安にさいなまれてしまうからという事情があります。Cさんは同居家族も多く今はチャレンジしていきたいということではいろんな事業所に行っており、それを優先しています。コロナだからやめておこうではなく、コロナでも気にしないでやってみるという思いからです。

利用者の行動だけをお互い耳にすれば、それぞれ事情が違うのですが、これはよくてこれがだめということもあまいなので、「あの人は自由にでかけているのに」「自分は我

慢しているのに」「自分は気をつけているのに」「ヘルパーじゃなくて家族と行くならいいのかな？」等不満や苛立ちにもつながっていくように思います。

事業所や支援者側からすると、通所や居住施設では多くの利用者がともに過ごしますし、ヘルパー事業所として派遣は、一日に複数か所まわったり、中には基礎疾患がある方や重度の障がいがある方のところにもいきます。感染拡大させてしまう要素が非常に高いため、なるべくリスクのある行動の自粛を今はお願したいという思いがあります。

実際利用者が濃厚接触者や陽性者になつてしまうと支援には入れないという事業者もあり、利用者自身にも不利益を与えてしまうことや支援者の調整が厳しく、特定の事業所のヘルパーへの負担が過重になっています。

この状況を解決できるのはコロナという感染症が落ち着いていくことしかないのですが、いまだ日本においても感染拡大第七波の真っ只中にあり、世界中のコロナウイルスが終息に向かうまでは先の見えない状況が続いております。すべての方の安寧と一日も早く、以前のように人と気軽に会ったり、心身ともに自由にでかけられるそんな世の中になることを願って、今の自分にできることを日々取り組んでいきたいと思えます。







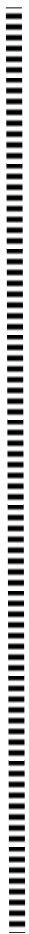
# 《活動状況》

## 7月

- 5日 社協 社会人マナー研修 (高橋)
- 6日 コンビニの会 NPO総会
- 7.25日 安全運転管理者講習 (榊原)
- 9日 エゼル福祉会全職員研修  
「本人」と「家族」の明日を考える勉強会  
～麦の芽福祉会 中村隆司氏を迎えて～
- 11日 社協 精神障害研修 (佐藤)
- 13日 連絡調整会議
- 14日 友の家様との交流会 (WILL)
- 15日 防災会議 (大西・久野)
- 18日 WILL・VOLO 祝日開所  
～ピザ作り体験～
- 20日 主任会議
- 23日 木全和己先生講座  
～障害者総合支援法施行見直しについて～
- 25日 会報発送

## 8月

- 3日 会報会議
- 5日 社協 普通救命研修 (松本)
- 7日 全障研 第56回全国大会 (山崎)
- 9日 防災会議 (大西・水野)
- 11～15日 WILL・VOLO 夏季休暇
- 17日 連絡調整会議
- 18日 防災訓練 (VOLO)
- 19日 社協 介護記録研修 (犬飼)
- 19日 通所主任会議
- 30日 エゼル福祉会 理事会
- 31日 社協 発達障害研修 (松本)



## コンビニハウス クリスマス会中止のお知らせ



新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない状況を考慮し  
誠に勝手ながら開催を中止させていただくこととなりました  
ご参加をご検討いただいていた皆様には  
ご期待に添えず大変申し訳ございません  
何卒ご理解のほど宜しくお願い申し上げます



コンビニハウス

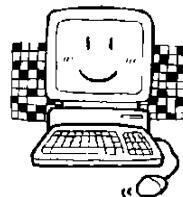


## 事務局コーナー



# 「ご協力ありがとうございました」

7月～8月（敬称略・順不同）



### ★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

トクメイ 中島温子 堀部裕子

近藤直子 渥美 弥 柳野友美

山上小枝子 黒崎とし子

岡本真理・美知子

チャオ 高橋会計事務所

### ★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

鈴木丈登 安永麻里 浅井宏紀

丹羽恵子 石原まち

高田真由美 木下楓奈子

塩澤しのか ㈱こうせい 滝藤建設

(WILL)

浅井宏紀 佐藤慶太 中谷暢宏

(VOLO)

水野香織 鈴木丈登 久保昂太郎

高嶋 颯 安永麻里 安積菜奈子

浅井宏紀 伊納尚男 高田真由美

小出朱里 塩澤しのか

### ★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

大森 信 石原正寅 辻本道子

石原まち 鈴木千春 寺西 剛

土田京加 榊原さち 田村淳仁

東原光江 西川昇吾 清水柚衣

大野香織 後藤 楓 桐澤 潮

鈴木悠太 栗本博美 小林愛恵

篠田倫子 林 京香 山本 愛

渡部陽妃 松井暖実 玉那覇詠洸

酒井まみ子 長谷川美緒

平林千聖都 山下茉綺聖

### ★ 会報発送ボランティア

半田素子 丹羽正子

藤田ますえ



# WILLの夏祭り

通所部 WILL

加藤 那月

酷暑が続くお盆休み前の8月10日、待ちに待ったウィルの夏祭りが行われました。

連日のコロナ陽性者増加の話題に、「できるのかなあ?」「あるのかな?」と気にしていた仲間たちも、無事に開催できることとなり、嬉しそうな様子でした。

当日は、仲間と作ったちょうちんで会場を飾りつけし、仲間も職員も浴衣や甚平・法被を着てお祭り気分を盛り上げました。

自宅からお花柄の甚平を来てご機嫌で来所されたOさん、法被を着て花飾りを髪に付けたFさん、自前の浴衣を格好よく着こなしたHさんやAさん、みんなが集まると普段仕事をしている作業場が一気にお祭り会場の雰囲気になりました。

午前中は盆踊り。有名な『炭坑節』や最近の盆踊りの人気曲『ダンシングヒーロー』、仲間も良く知っている『一休さん』『ドラえもん』を踊りました。

輪になって、手本の職員を先頭に回りだすと、「私も!」と仲間も次々と輪の中へ入り踊り出します。踊ってみるとなかなかハードで、2曲終わったところでもう「休憩しようか?」と職員がきいてしまうほどでしたが、仲間は輪の中で楽しそうに続きを待っています。そのキラキラした表情に、よしつと気合を入れて踊り続けました。いつもはニコニコしながら少し離れた場所でみんなを見守っているNさんも、この日は曲がかかると輪の中に入り、いつものニコニコ顔でみんなと一緒に回りました。その姿を見て、楽しんでもらっているんだなあと私も嬉しくなりました。

午後は出店体験。射的、輪投げ、金魚すくいを楽しみました。

射的ではおもちゃの銃でお菓子を狙って撃ち落とすのが本物さながらの臨場感で、銃

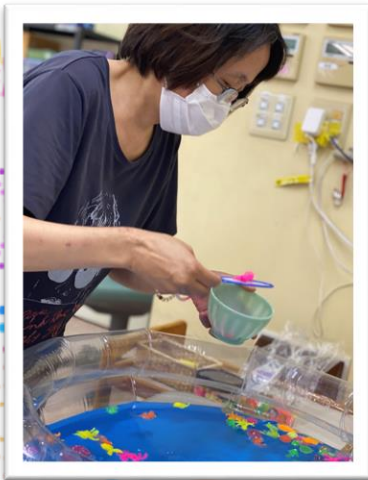
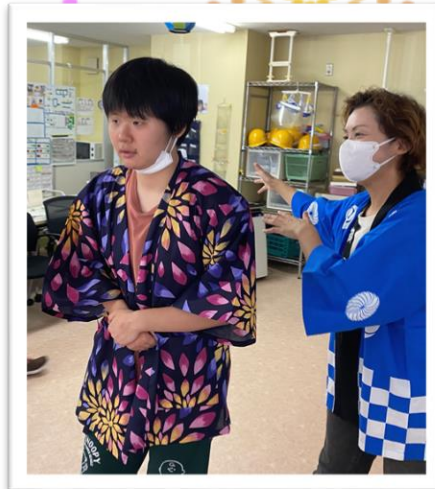
を持った仲間がスナイパーのような表情と立ち姿で挑んでいました。金魚すくいでは、車いすの仲間も参加できるようにとテーブル上にビニールプールを置いて、おもちゃの金魚やボールを浮かべ、ポイを握りしめた仲間が真剣な表情ですくっていました。輪投げは、お菓子のうまい棒を立てて景品にし、好きな味を狙って輪を投げました。みんな、見事景品をゲットすると、「やったー!」と歓声をあげて喜んでいました。

コロナで地域のお祭りに参加できないことも多い中、一日賑やかに夏祭りの雰囲気を楽しむことができました。会報の最終頁に当日の様子を写真で掲載しましたので、お楽しみいただけましたら嬉しいです。来年はコロナも落ち着いてもっと盛大に開催できますように。



WILL

# 夏祭り



## 【銀行口座】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108  
 特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する  
 特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

## コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail [convini@beach.ocn.ne.jp](mailto:convini@beach.ocn.ne.jp)

